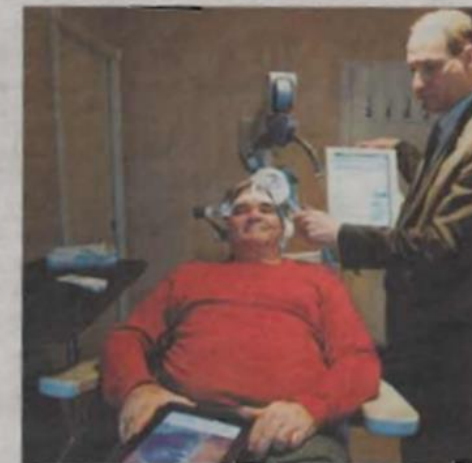


おでこに電流、うつ病を改善



おでこに電気を流すと、うつ病の症状が改善
photo: Okazaki Aiko

脳

のことがもっと分かってくれば、脳に関係する病気も治せるようになるかもしれない。そのひとつが、うつ病だ。薬が効かない重症の患者の脳に電流をあてて症状を改善させるといふ治療法が登場し、注目されている。

米ニューヨーク・マンハッタンの中心部。デビッド(61)は週5回、精神科クリニック「TMSメディカル・アソシエイツ・オブNY」に通院している。

「もし僕と3週間前に会っていたら、こうして話すことなんて出来なかったと思う。自宅に引きこもって、死ぬことばかり考えていたから」

うつ病に長い間、苦しむ人は少なくない。デビッドもこの20年間、闘病してきた。製薬企業の営業職だったが、病気で退職。症状が落ち着く状態と、再発を繰り返してきた。主治医のアラン・マナビッツが勧めたのが、脳に電流をあてる「TMS(経頭蓋磁気刺激)」だった。

この治療法では、おでこの左右周辺

を電流で刺激する。米食品医薬品局が2008年、抗うつ薬が効かない人を対象に治療を認めたほか、カナダや豪州、欧州の一部の国でも認められている。

患者は約40分間、リクライニングソファに座ってビデオを見たり、音楽を聴いたりしながら治療を受ける。

この治療に関連した研究が始まったのは1990年代半ば。脳の働きを画像で確認すると、うつ病の人では、左のおでこ周辺の働きが低下していた。この辺りは意欲に関係する部分だ。「それなら電流で刺激してみたらどうか」と考えたことが、この治療法のきっかけだ。電流が流れると「カチカチカチ」とキツツキが木をつくような音がして、ビリビリと刺激を感じる。治療は最低週5日、4〜6週間続く。

このクリニックでは、これまでに300人近くの患者を治療し、日本からも16人が訪れたという。多くの患者は平均3年間、一般的なうつ病の治療を続けており、6種類以上の抗うつ薬を経験していた。一般的に症状が落ち着く割合は30%程

度だが、ここでは、カウンセリングなどの精神療法も組み合わせていることもあり、「70%に効果がある」と説明する。目立つ副作用もないという。

ただ治療費は1回350ドル(約3万5000円)と高額で、原則、全額自己負担だ。いったん症状が落ち着いても、半年で1割程度は再発するという。「それでも長年、苦しんできたうつ病が消えるなら、お金を費やす価値のある治療だと患者は考えている」とマナビッツ。

ただ、なぜ電流による刺激がうつ病に効果があるのか、詳しい仕組みははっきりしない。脳内で意欲にかかわる神経伝達物質が増えるから、うつ病になると働きが落ちる海馬に栄養を与えるたんぱく質が増えるから——など、様々な説がある。

日本では、この治療装置は、神経の



病気の検査用で、うつ病の治療には認められていない。このため、複数の医療機関が研究や自由診療で使用している。その一つ、杏林大病院(東京都三鷹市)はこれまでに、約130人の患者をこの手法で治療してきた。2012年からは、脳血流や脳波など脳の働きを示す画像をもとに、どの患者に効果があるのか、治療前に予測できないか検証中だ。精神神経科講師の鬼頭伸輔は「この治療法への患者の期待は高く、効果がある人が事前にわかれば効率的に治療できる」と話す。ただ、今も約600人が治療を待っており、新たな患者は受け付けていない。●(岡崎明子)

Dr. Alan Manevitz. 60 Sutton Place South, New York, NY 10022. 1-212-935-1423